

第2章 子どもを取り巻く現状

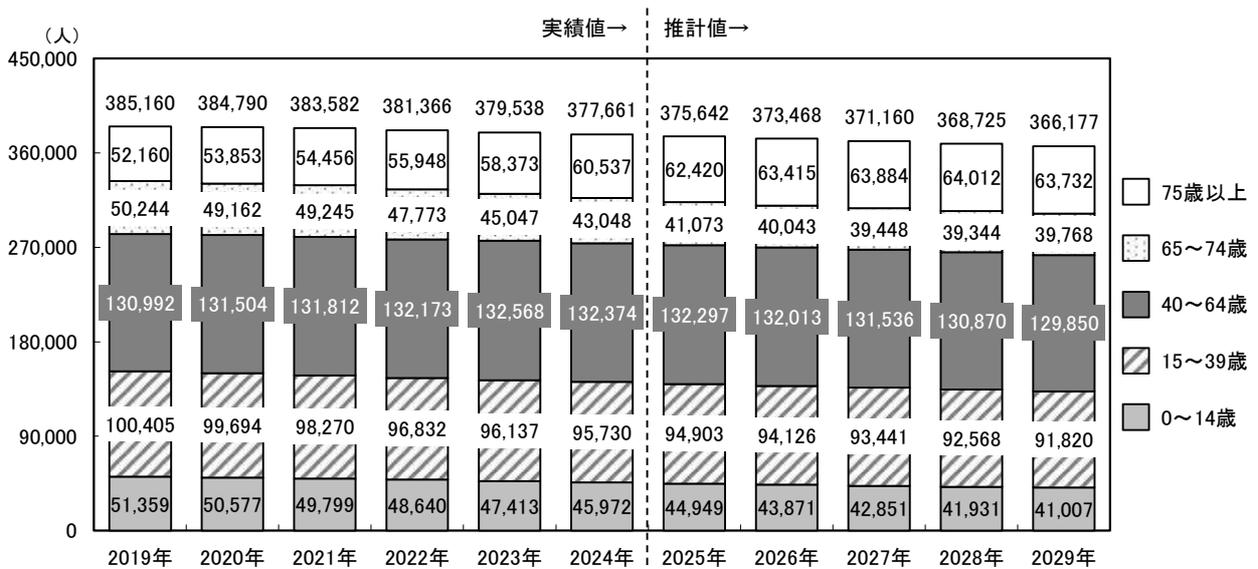
1 市の全体的な状況

(1) 総人口は減少傾向で推移

本市の総人口の実績値は38万人程度で、わずかながら減少傾向で推移しています。年齢5区分別人口で見ると、0～14歳及び15～39歳、65～74歳は減少傾向、40～64歳及び75歳以上は増加傾向で推移しています。

人口推計についてみると、減少傾向は継続的に続くものと見込まれ、2028年には37万人を割る推計となっています。また、40～64歳については2023年の実績値をピークに減少しており、また75歳以上については2028年をピークに、減少に転じることが予測されます。

■総人口と年齢5区分別人口の推移（実績値、推計値）



資料：【実績値】住民基本台帳（各年4月1日時点）

【推計値】コーホート変化率法※による独自推計

※「コーホート」とは、同じ年（又は同じ期間）に生まれた人々の集団のことをさす。

また、「コーホート変化率法」とは、各コーホートについて、過去における実績人口の動勢から「変化率」を求め、それに基づき将来人口を推計する方法

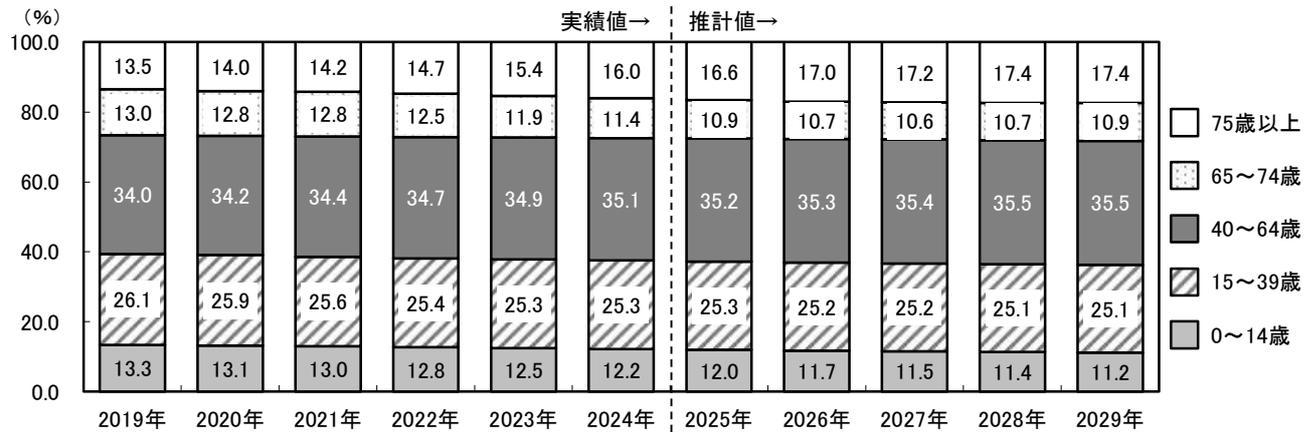


第2章 子どもを取り巻く現状

年齢5区分別人口割合の実績値については、2019年から2024年にかけて減少している0～14歳、15～39歳、65～74歳については、それぞれ1.1ポイント、0.8ポイント、1.6ポイントの減となっており、増加している40～64歳、75歳以上は、それぞれ1.1ポイント、2.5ポイントの増となっています。

推計値については、0～14歳、15～39歳については継続的な減少が見込まれます。また、40～64歳、75歳以上については継続的な増加が見込まれます。65～74歳については、2027年までは減少が続き、以降は増加に転じることが見込まれます。

■年齢5区分別人口割合の推移（実績値、推計値）



資料：【実績値】住民基本台帳（各年4月1日時点）

【推計値】コーホート変化率法による独自推計

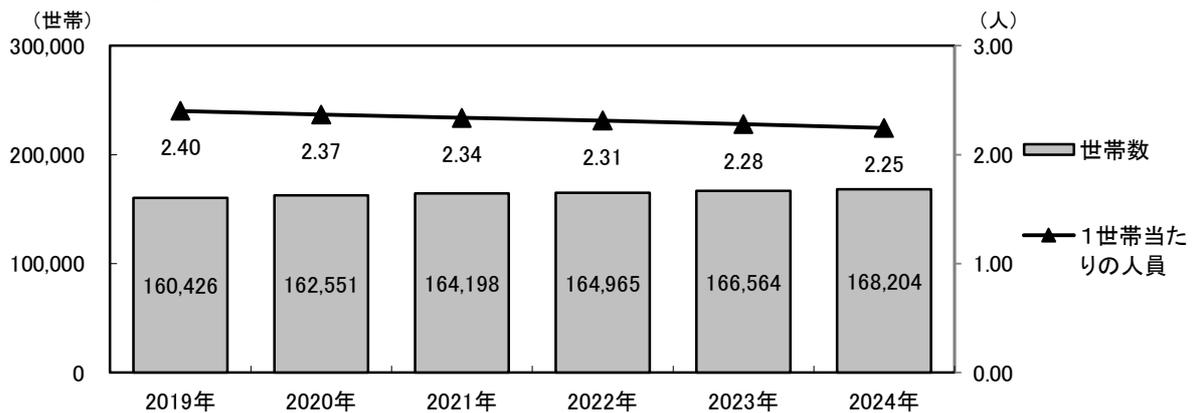
注）構成比の数値は、小数点以下第2位を四捨五入しているため、個々の集計値の合計は必ずしも100%とならない場合がある（以下同様）。

（2）世帯数は増加傾向で推移

世帯数については増加傾向で推移しており、2024年には168,204世帯となっています。2019年と比較して4.8%の増加となっています。

また、世帯の増加に伴い、1世帯当たりの人員は減少が続いています。

■世帯数の推移



資料：住民基本台帳（各年4月1日時点）

2 子どもや保護者の状況

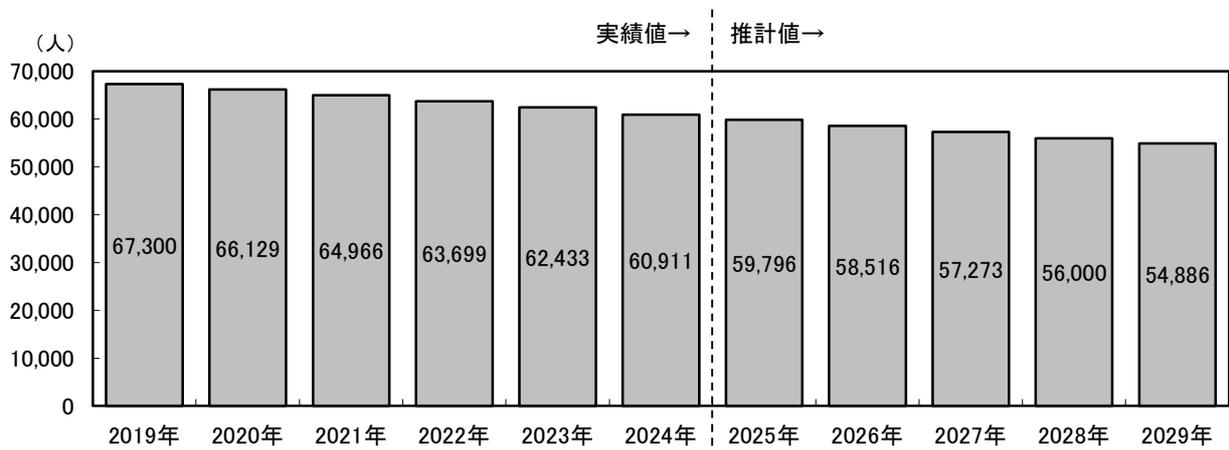
(1) 18歳未満の人口も実績・推計ともに減少傾向

① 児童（満18歳未満）人口

児童福祉法に定める「児童」である満18歳未満人口の推移については減少傾向で推移しており、2024年では60,911人となっています。

なお、推計値については2029年において54,886人となっており、2024年の実績と比較して9.9%の減少となることが見込まれます。

■児童（満18歳未満）人口の推移（実績値、推計値）



資料：【実績値】住民基本台帳（各年4月1日時点）

【推計値】コーホート変化率法による独自推計

② 子ども（教育・保育事業や地域子ども・子育て支援事業の対象）の人口

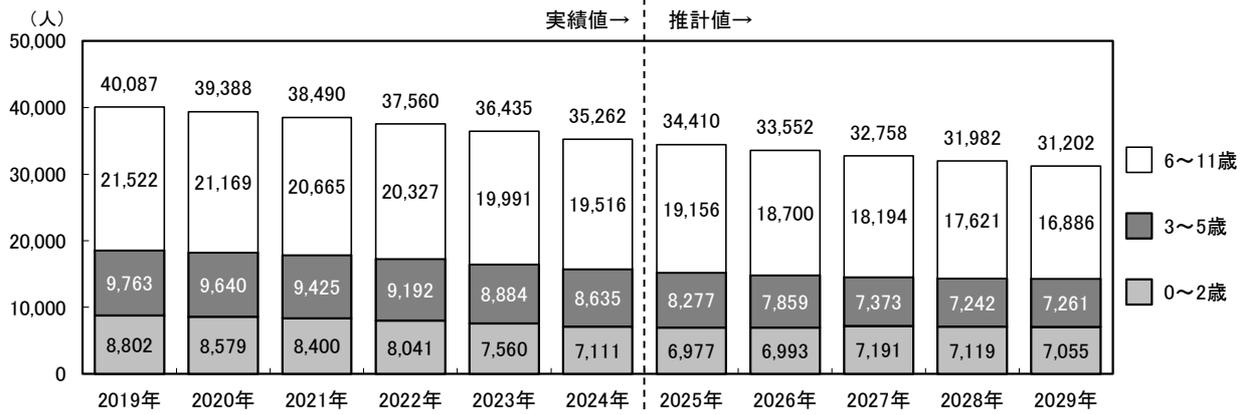
幼児期の教育・保育や地域子ども・子育て支援事業の対象である小学生までの人口の実績値の推移をみると、0～2歳（3号認定）、3～5歳（1号・2号認定）、6～11歳（小学生）のいずれも減少傾向で推移しています。

推計値についても、おおむね減少傾向が続くものと見込まれます。2024年と比較すると2029年には11.5%の減少となることが見込まれます。



第2章 子どもを取り巻く現状

■年齢3区分別の子ども人口の推移（実績値、推計値）

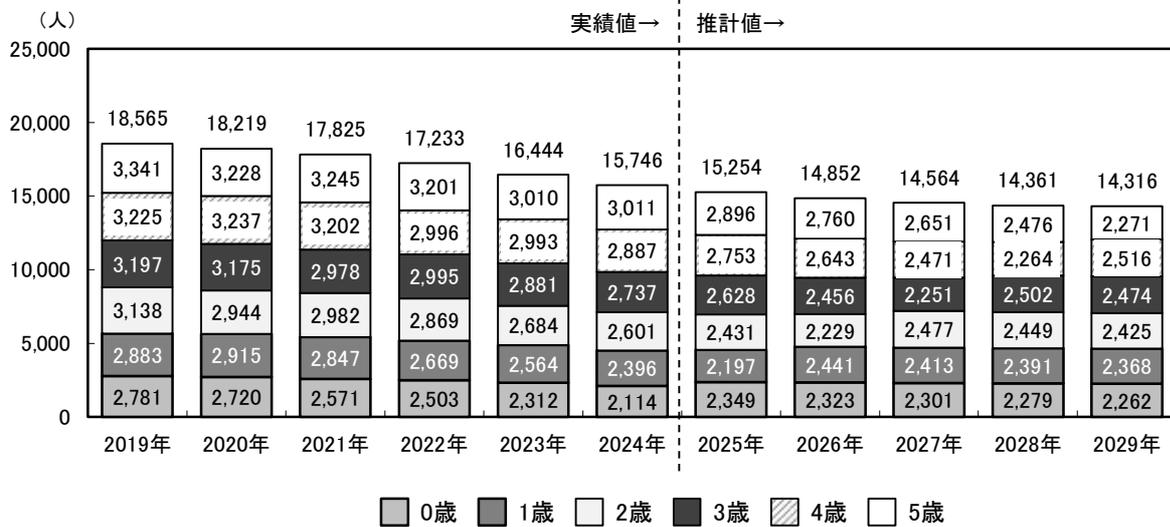


資料：【実績値】住民基本台帳（各年4月1日時点）

【推計値】コーホート変化率法による独自推計

5歳以下の子どもの人口を年齢1歳区切りで見ると、全体として減少傾向にあります。推計値についても同様の傾向で推移しています。

■5歳以下の各歳別の人口推移（実績値、推計値）



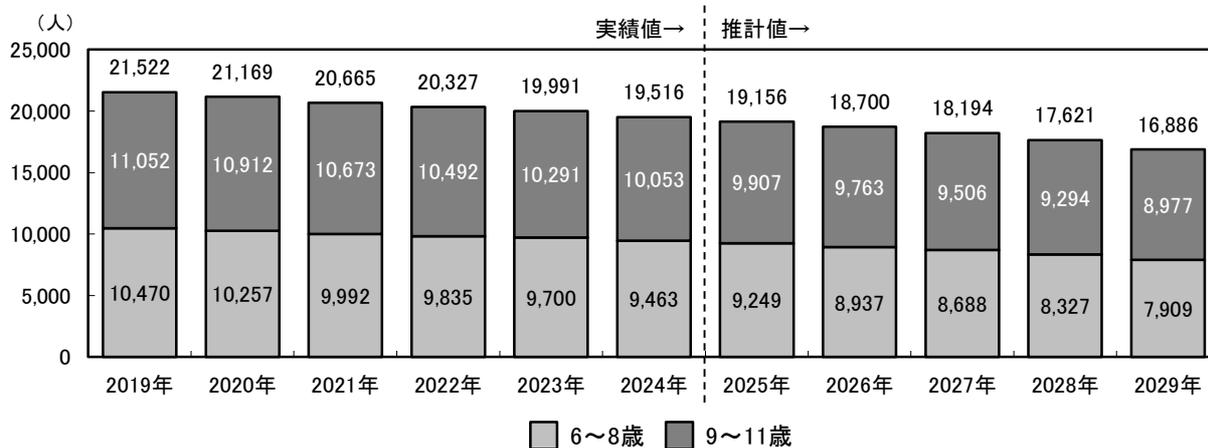
資料：【実績値】住民基本台帳（各年4月1日時点）

【推計値】コーホート変化率法による独自推計

6歳以上の子どもでみると、6～8歳（低学年）及び9～11歳（高学年）ともに、2019年から2024年にかけて減少しています。

推計値についても、減少傾向が続く見込みです。

■小学校低学年・高学年別の人口推移（実績値、推計値）



資料：【実績値】住民基本台帳（各年4月1日時点）

【推計値】コーホート変化率法による独自推計





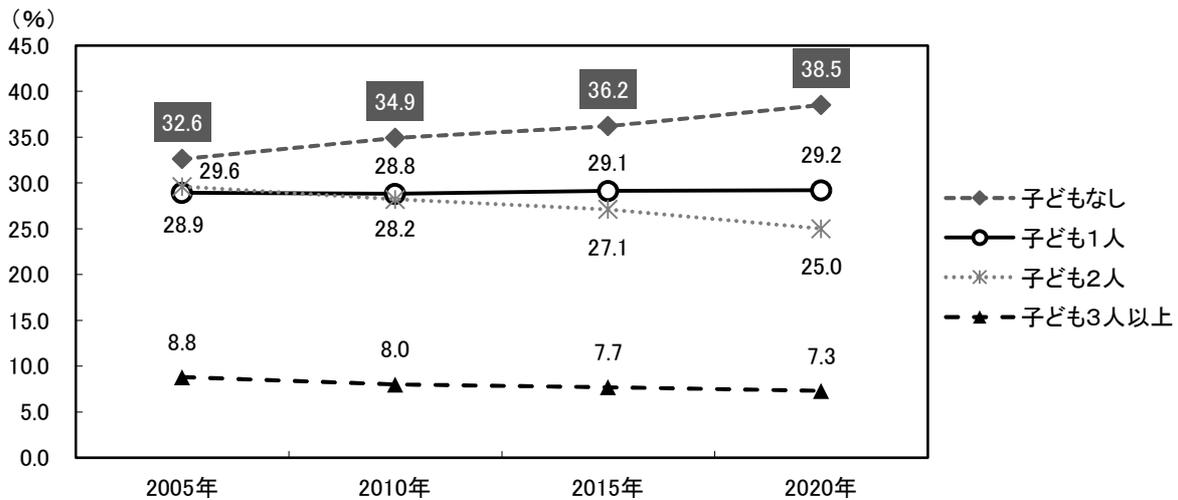
(2) 子どものいる共働き世帯は増加傾向

① 世帯の子どもの数の推移

夫婦からなる世帯において、子どもの数による構成比の推移をみると、子どものいない世帯は増加傾向であるのに対して、子どもが2人以上の世帯は減少傾向にあります。

子どもが1人の世帯は2010年にやや減少したものの、2015年以降は増加傾向にあります。

■ 夫婦からなる世帯における子どもの数による構成比の推移

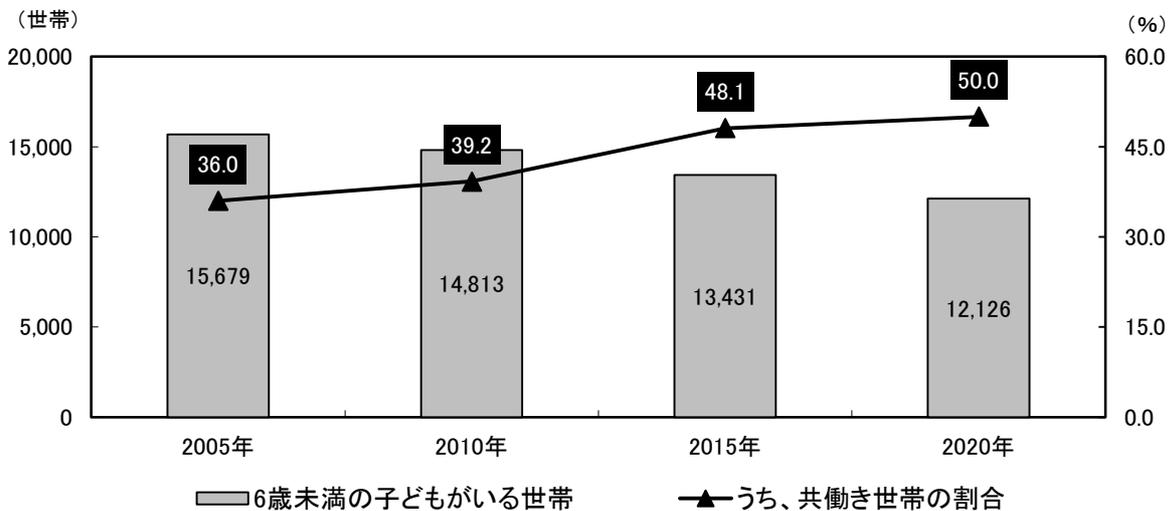


資料：国勢調査

② 子どもがいる共働き世帯

6歳未満（就学前児童）の子どもがいる世帯をみると、2005年から減少傾向で推移しており、2020年には12,126世帯となっています。一方、その中の共働き世帯の割合は増加しており、2020年には50.0%と半数を占めています。

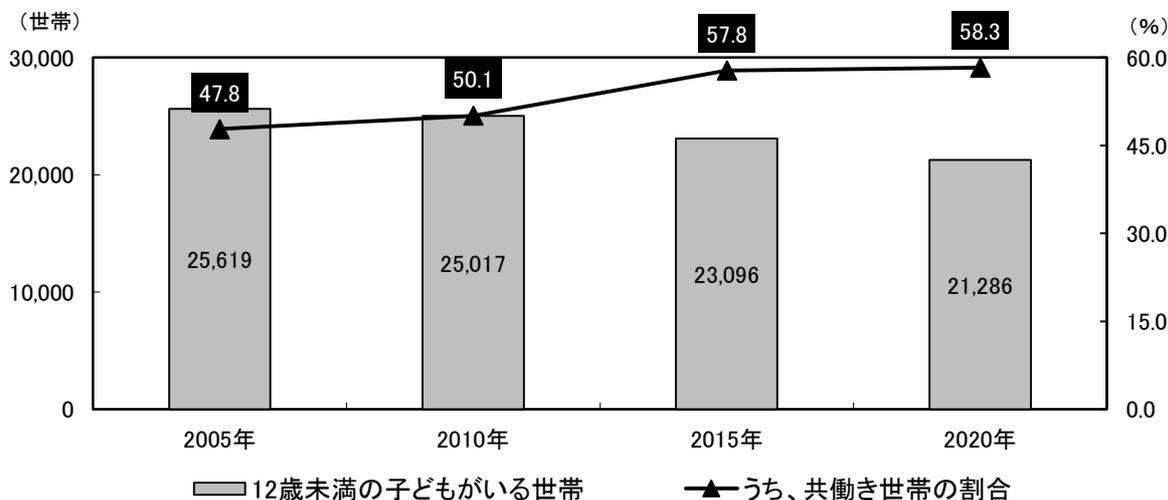
■ 6歳未満の子どもがいる共働き世帯の推移



資料：国勢調査

また、12歳未満（小学生児童）の子どもがいる世帯についても、2005年から減少傾向で推移していますが、共働き世帯の割合は増加しており、2020年には58.3%となっています。

■12歳未満の子どもがいる共働き世帯の推移



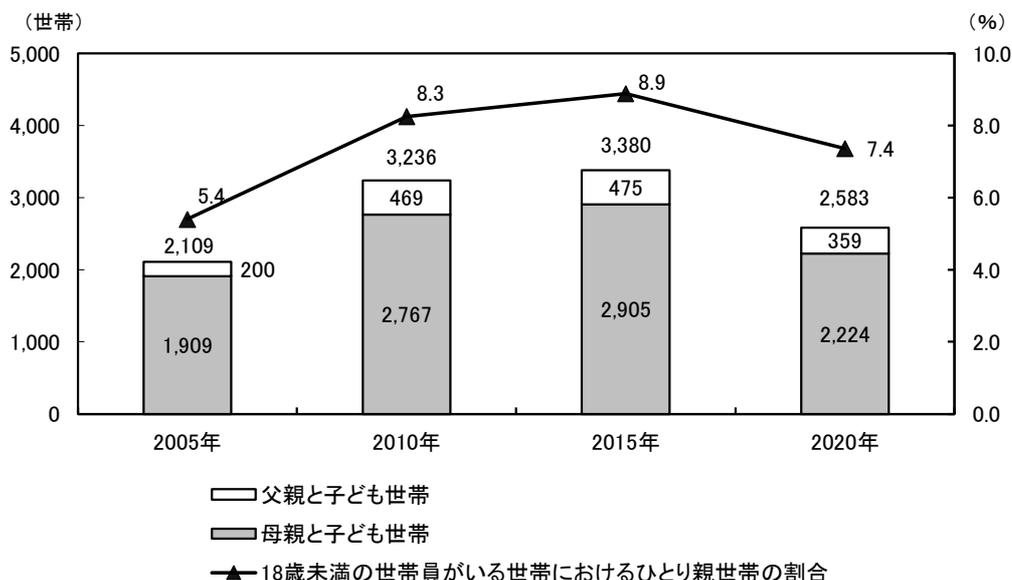
資料：国勢調査

③ ひとり親世帯

ひとり親と子ども（18歳未満の世帯員がいる世帯。以下「ひとり親世帯」という。）の世帯数は2015年まで増加傾向にありました。2020年には、父親と子ども世帯が359世帯、母親と子ども世帯が2,224世帯と減少しています。

また、ひとり親世帯の割合も同様に2005年から2015年にかけて増加傾向にありましたが、2015年から2020年にかけては減少し、2020年においては7.4%となっています。

■ひとり親世帯の推移



資料：国勢調査

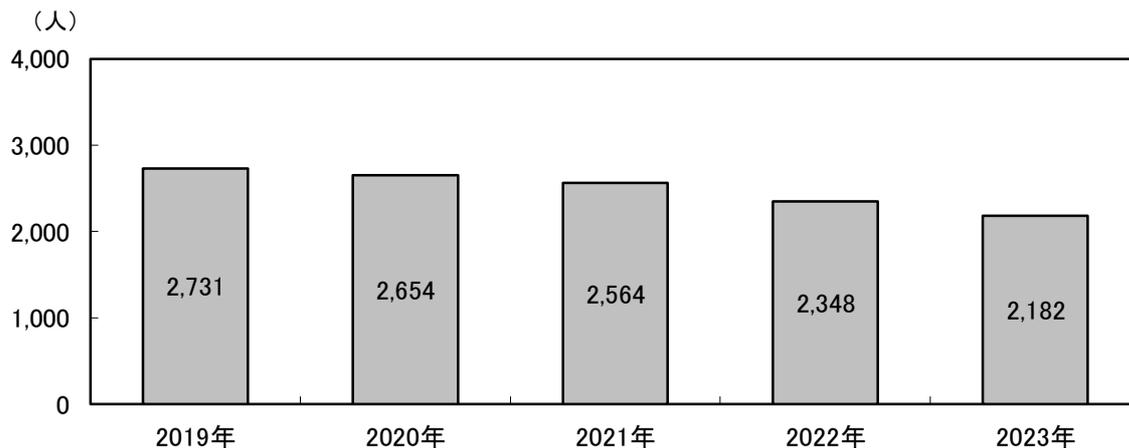


(3) 本市の合計特殊出生率は2022年以降、全国平均を下回る

① 出生数の推移

本市の出生数については減少傾向で推移しており、2023年は2,182人となっています。2019年と比較して20.1%の減少となっています。

■出生数の推移



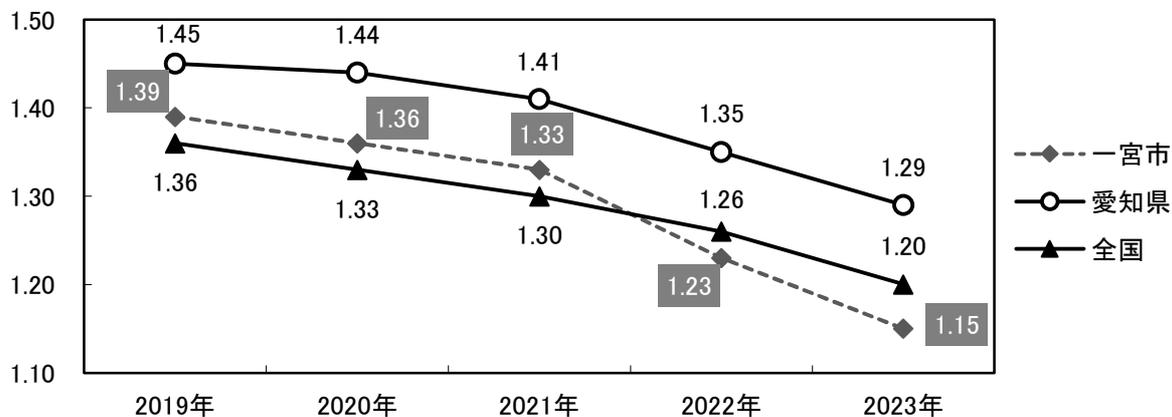
資料：一宮市の人口動態

② 合計特殊出生率の推移

15歳から49歳までの女性が一生に生むとされる子どもの数である合計特殊出生率については、低下し続けています。

2019年から2021年にかけては全国と愛知県の間で推移してきましたが、2022年以降においては全国の水準をも下回り、2023年には1.15となっています。

■合計特殊出生率の推移



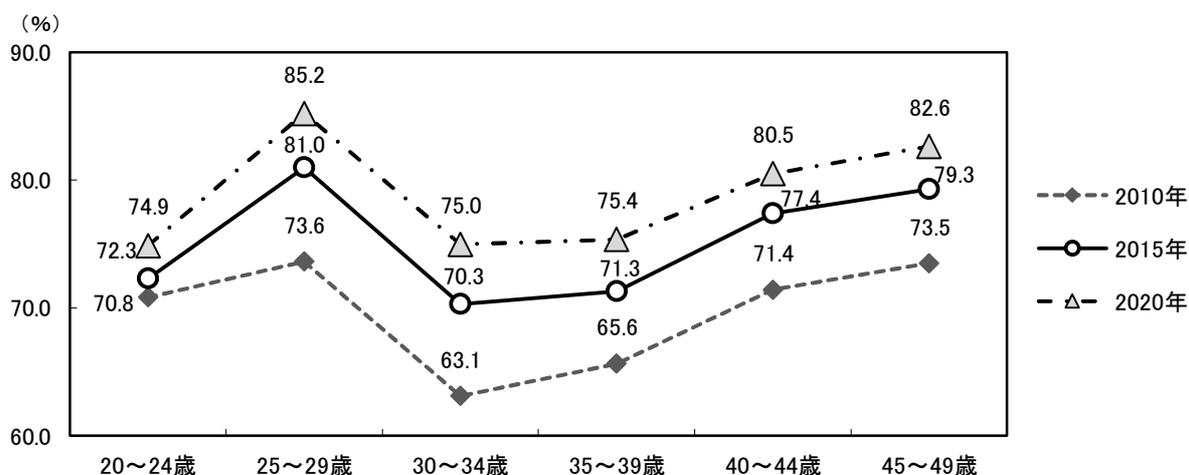
資料：一宮市の人口動態（一宮市）、人口動態統計（全国、愛知県）

(4) 女性の労働力率は上昇傾向

本市における女性の労働力率*（就労の状況と意思）の推移をみると、いずれにおいても、結婚・出産期にあたる年代に一旦低下し、育児が落ち着いた時期に再び上昇するという、いわゆるM字カーブを描いていますが、そのカーブの谷の部分は浅くなる傾向にあります。全体としては年々労働力率が上昇する推移となっています。

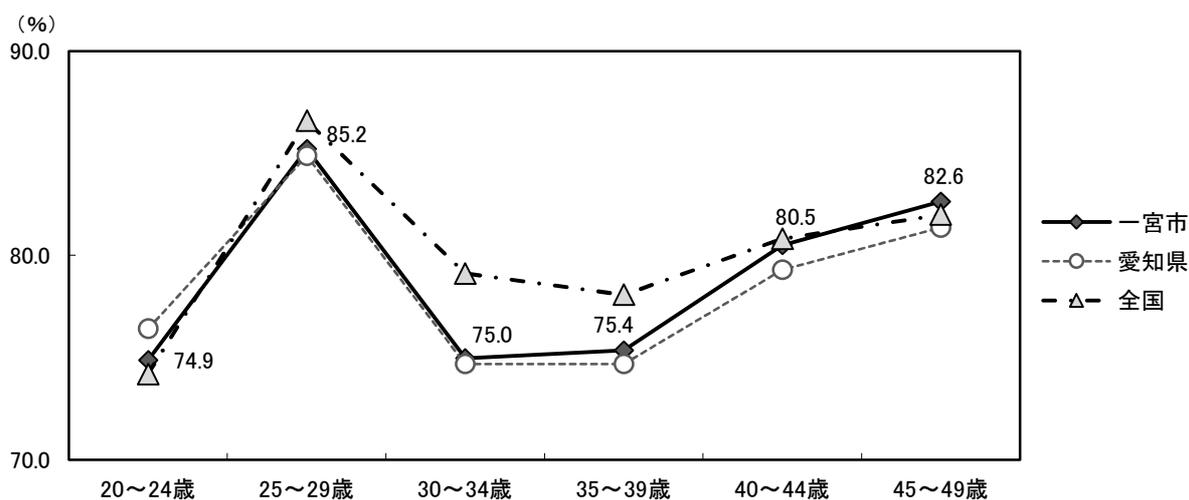
また、全国や愛知県と比較すると、M字カーブの谷にあたる30歳代は全国よりも低い水準となっています。

■女性の労働力率の推移



資料：国勢調査

■女性の労働力率の推移（2020年）



資料：国勢調査

※労働力率は、15歳以上の人口に占める労働力人口の割合（就労する能力と意思を持つものをさすため、実際には失業している人も含む。）

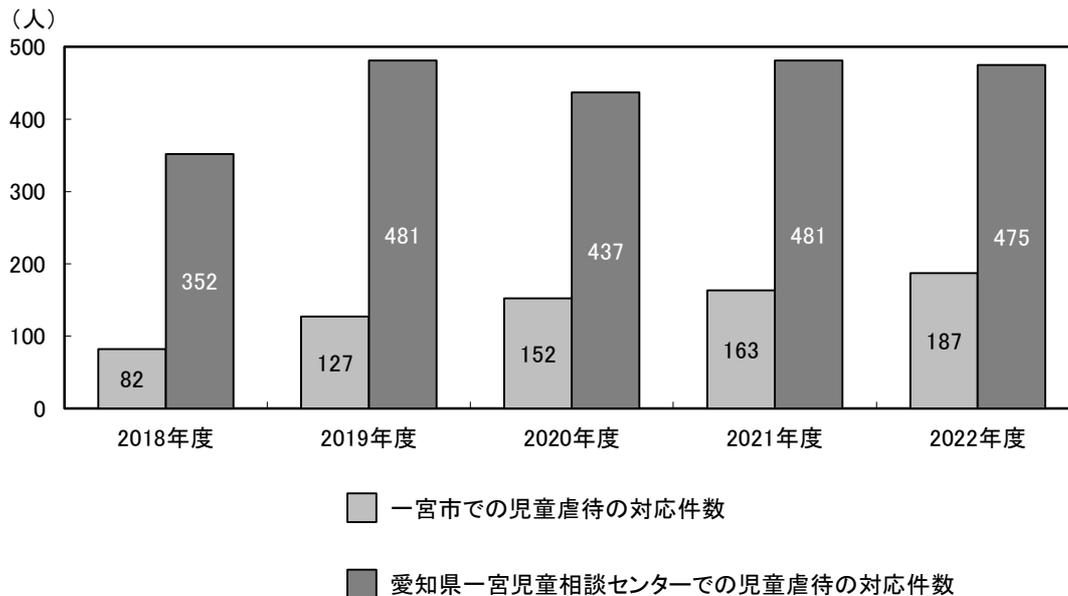


(5) 社会的な支援が特に必要な子どもや子育て家庭はおおむね増加

① 虐待の対応件数

児童虐待の対応件数については、本市の対応件数、愛知県一宮児童相談センターの対応件数ともに増加傾向にあります。

■虐待の対応件数の推移

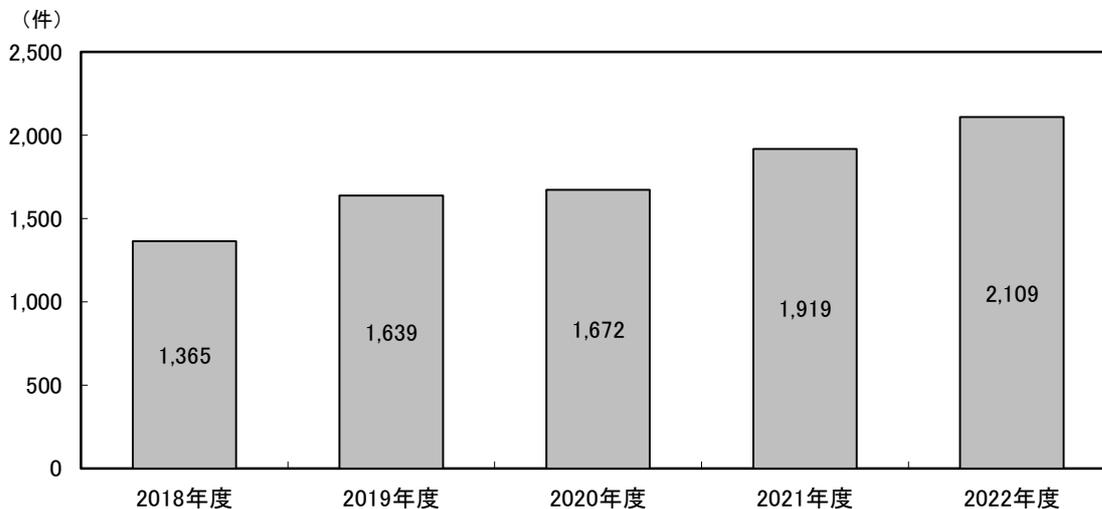


資料：一宮市資料（一宮市要保護児童対策地域協議会資料）

② 障害のある子どもの状況（障害児通所支援の利用状況）

障害児福祉サービスである障害児通所給付費の支給件数については、増加傾向で推移しており、サービスの利用者数は増え続けています。

■障害児通所支援の利用状況



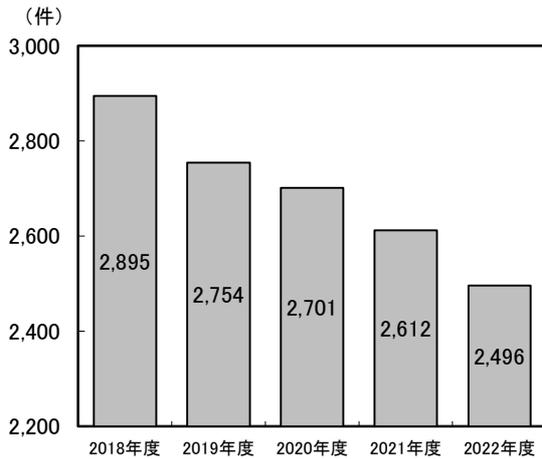
資料：一宮市資料

③ 経済的な支援が必要な子育て家庭の状況

児童扶養手当の支給対象者は減少傾向にあり、2022年度では2,496件となっています。

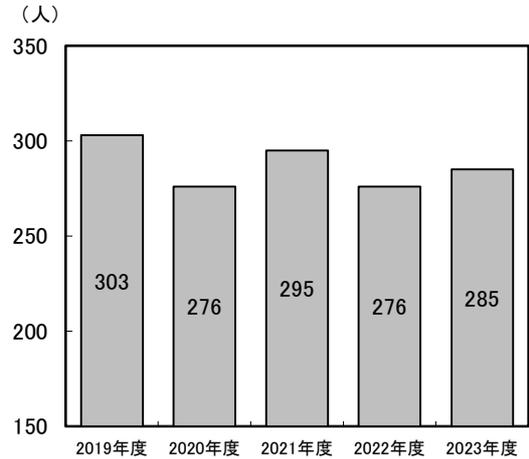
生活保護受給世帯の18歳未満人口については増減を繰り返しながら推移しており、その中でも2022年度から2023年度にかけては増加しています。

■児童扶養手当の支給対象者数の推移



資料：一宮市資料（各年3月31日現在）

■生活保護受給世帯の18歳未満人口の推移

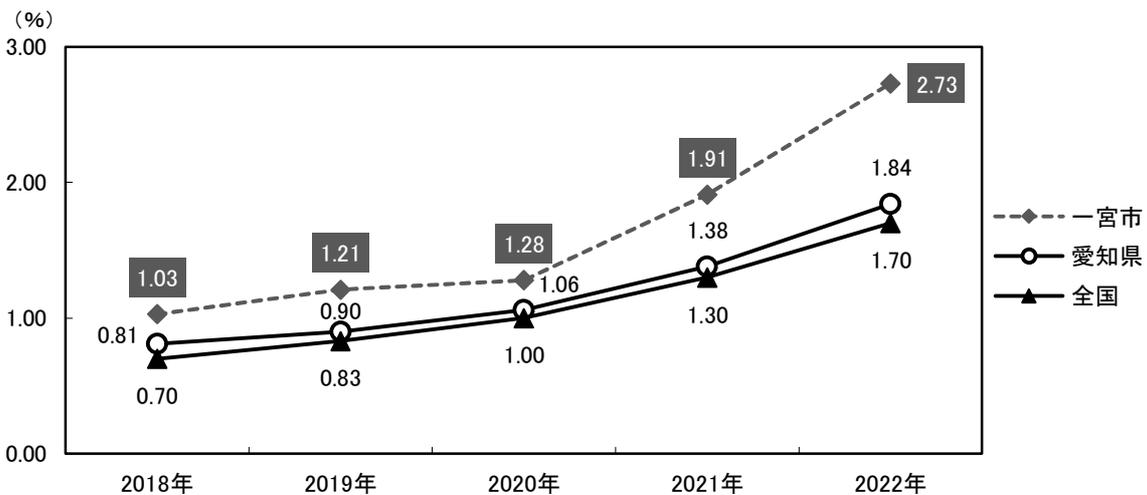


資料：一宮市資料（各年4月1日現在）

④ 小学生の不登校の状況

小学校における不登校の状態^{*}にある児童が全児童数に占める割合は増加傾向にあります。愛知県や全国と比較すると、本市は愛知県や全国よりも高い水準で推移しています。

■小学生の不登校の状況



資料：一宮市資料（不登校状況調査）

^{*}不登校とは、年間30日以上を欠席している状態をさしている。



3 一宮市の子育て家庭の状況

～子ども・子育てに関するアンケート調査（ニーズ調査）結果より～

(1) ニーズ調査における回答者の基本的な状況

① 家庭類型別比率

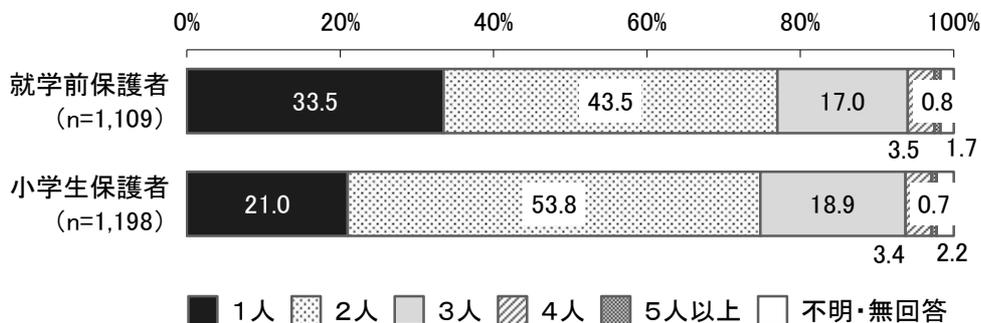
ニーズ調査に回答をした子育て家庭を「ひとり親家庭」と「両親の家庭」に区分し、さらに両親の働き方の組み合わせで類型化すると、その比率は次のようになります。

■家庭類型別比率

類 型	就学前				小学生			
	計	0 歳	1・2 歳	3 歳以上	計	低学年	高学年	
ひとり親	5.5%	0.0%	3.4%	6.9%	10.5%	11.2%	10.3%	
両親	フルタイム×フルタイム	37.5%	68.8%	41.8%	32.2%	22.3%	22.7%	22.4%
	フルタイム×パートタイム	32.2%	7.8%	25.4%	37.5%	48.7%	42.8%	53.7%
	専業主婦（夫）	24.4%	23.4%	28.8%	23.0%	18.3%	22.7%	13.6%
	パートタイム×パートタイム	0.4%	0.0%	0.6%	0.4%	0.2%	0.5%	0.0%
	無職×無職	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

② 育てている子どもの人数

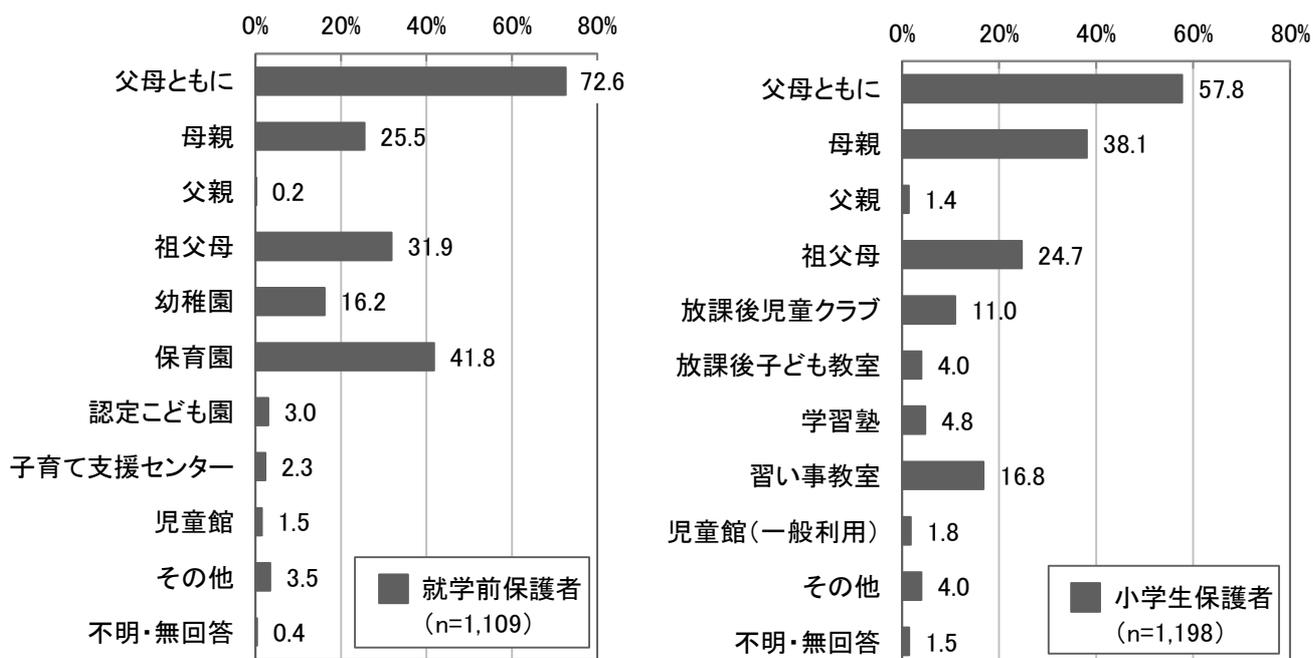
就学前、小学生ともに「2人」が最も多く、次いで就学前、小学生いずれも「1人」が多くなっています。



(2) 「父母ともに」子どもの日常に関わっており、緊急時は祖父母に預けるケースが多い

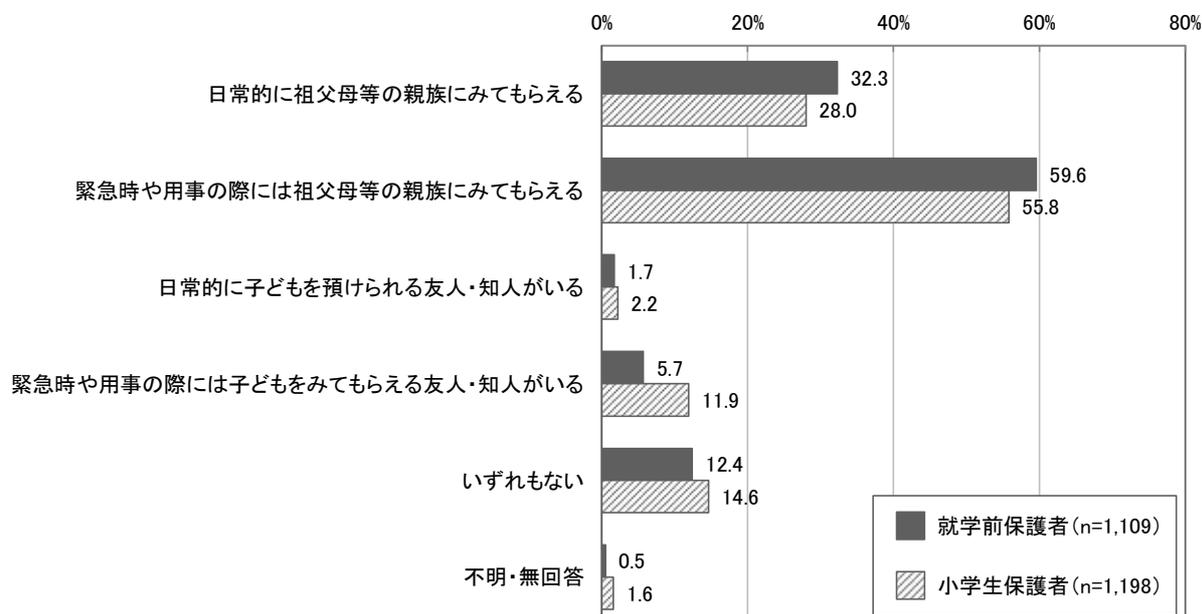
① 子どもと日常的に関わっている方

就学前、小学生ともに「父母ともに」が72.6%、57.8%と最も多く、次いで就学前では「保育園」が41.8%、「祖父母」が31.9%となっており、小学生では「母親」が38.1%、「祖父母」が24.7%となっています。



② 日ごろ子どもをみてもらえる人

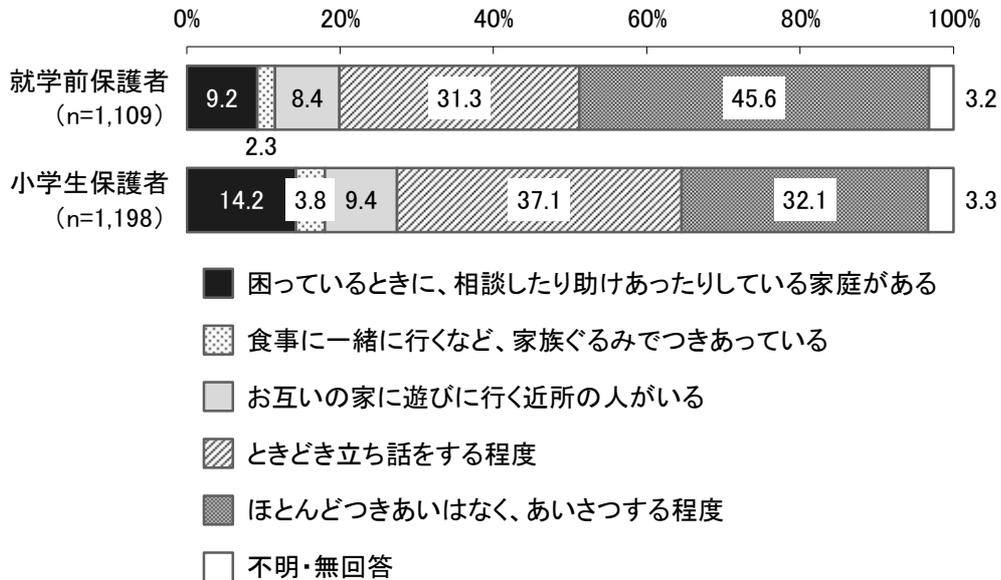
就学前、小学生ともに「緊急時や用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」が59.6%、55.8%と最も多く、次いで「日常的に祖父母等の親族にみてもらえる」が32.3%、28.0%、「いずれもない」が12.4%、14.6%となっています。





(3) 子育て家庭における、となり近所（地域）との関係は“あいさつ程度”が多い

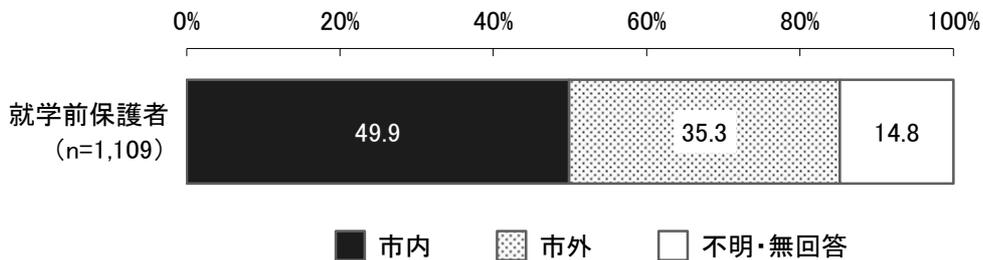
となり近所（地域）とのつきあいに関する質問については、就学前では、「ほとんどつきあいはなく、あいさつする程度」が45.6%と最も多く、次いで「ときどき立ち話をする程度」が31.3%となっています。小学生では、「ときどき立ち話をする程度」が37.1%と最も多く、次いで「ほとんどつきあいはなく、あいさつする程度」が32.1%となっています。



(4) 母親の就労状況は“パート・アルバイト等”が多く、その継続を希望

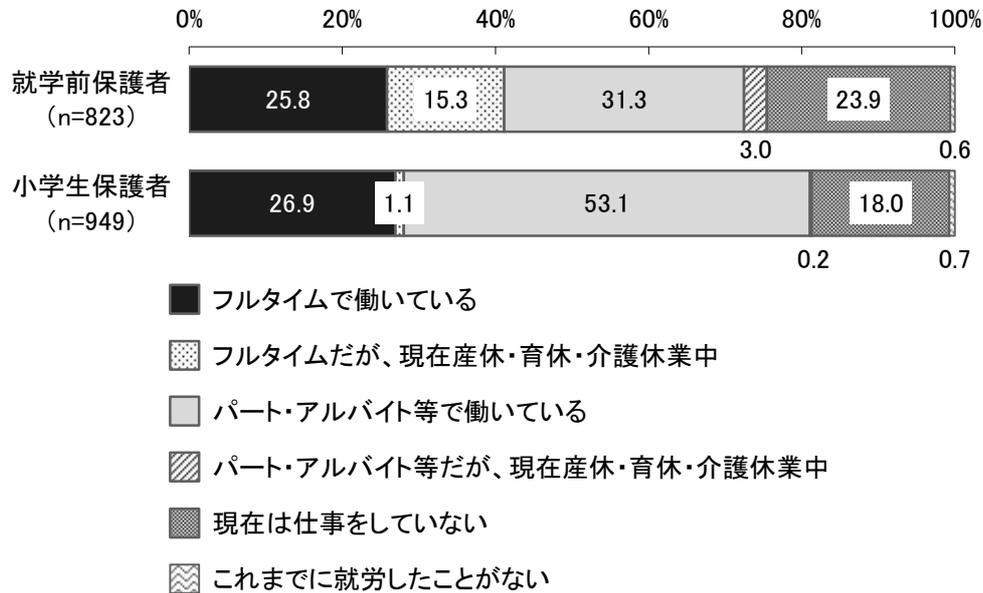
① 保護者の通勤先（就学前のみ）

保護者の通勤先は、「市内」が49.9%、「市外」が35.3%となっています。



② 母親の就労状況

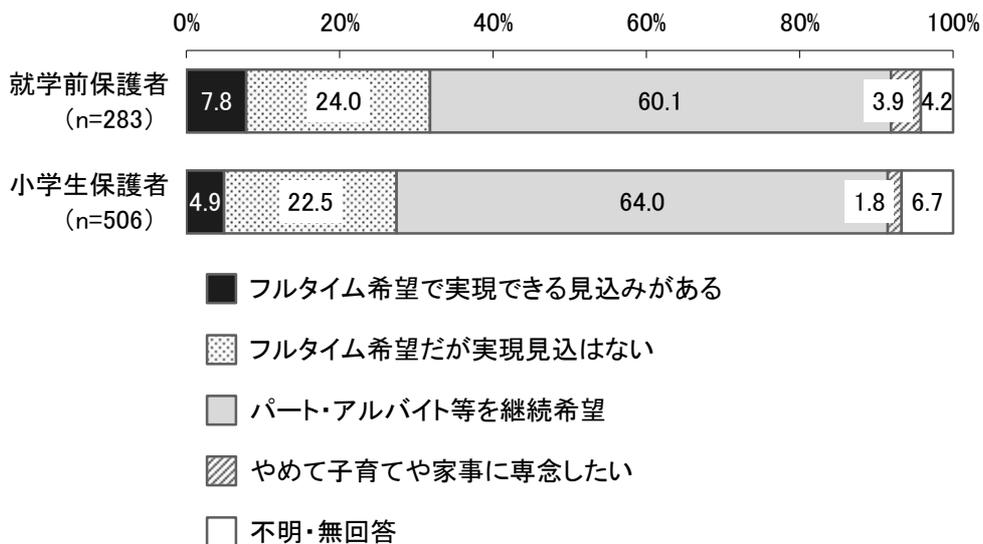
就学前、小学生ともに、「パート・アルバイト等で働いている」が31.3%、53.1%と最も多く、次いで「フルタイムで働いている」が25.8%、26.9%となっています。



※「不明・無回答」を除いた結果を掲載

③ パート・アルバイト等で働く保護者のフルタイムへの転換希望

就学前、小学生ともに、「パート・アルバイト等を継続希望」が60.1%、64.0%と最も多く、次いで「フルタイム希望だが実現見込みはない」が24.0%、22.5%となっています。

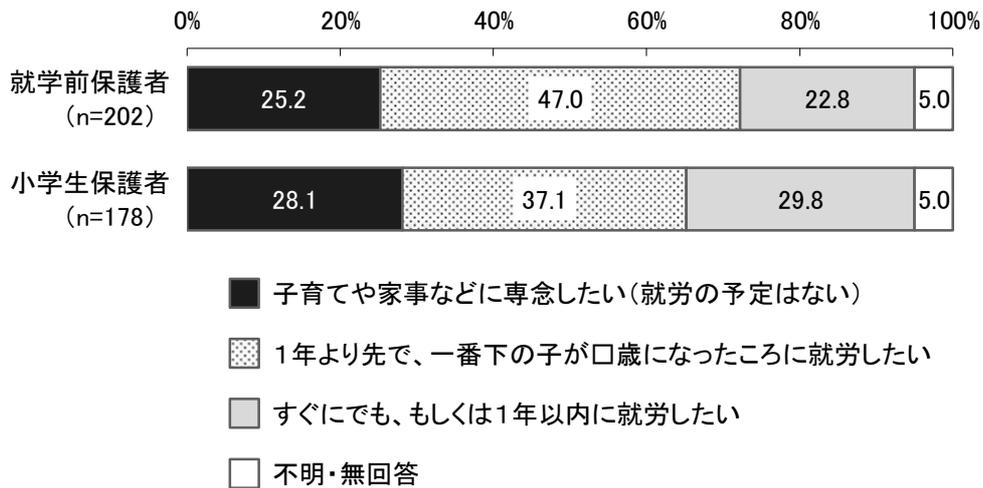




④ 現在就労をしていない保護者の今後の就労希望

就学前では、「1年より先で、一番下の子が□歳になったところに就労したい」が47.0%と最も多く、次いで「子育てや家事などに専念したい」が25.2%となっています。

小学生では、「1年より先で、一番下の子が□歳になったところに就労したい」が37.1%と最も多く、次いで「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」が29.8%となっています。



ニーズ調査)))

本計画の策定に向けた基礎資料を得ることを目的に、2023年にアンケート調査を実施しました。

- 調査地域：一宮市全域
- 調査対象：一宮市内在住の就学前児童の保護者（就学前保護者）
一宮市内在住の小学生児童の保護者（小学生保護者）
- 抽出方法：住民基本台帳より、就学前児童（0～5歳児）2,000人、
小学生（1～6年生）2,000人の合計4,000人を無作為抽出
- 調査期間：2023年10月13日（金）～10月31日（火）
- 調査方法：郵送による配布・回収又は電子回答

調査票	調査対象者数 (配布数)	有効回収数	有効回収率
就学前児童	2,000	1,109	55.5%
小学生児童	2,000	1,198	59.9%

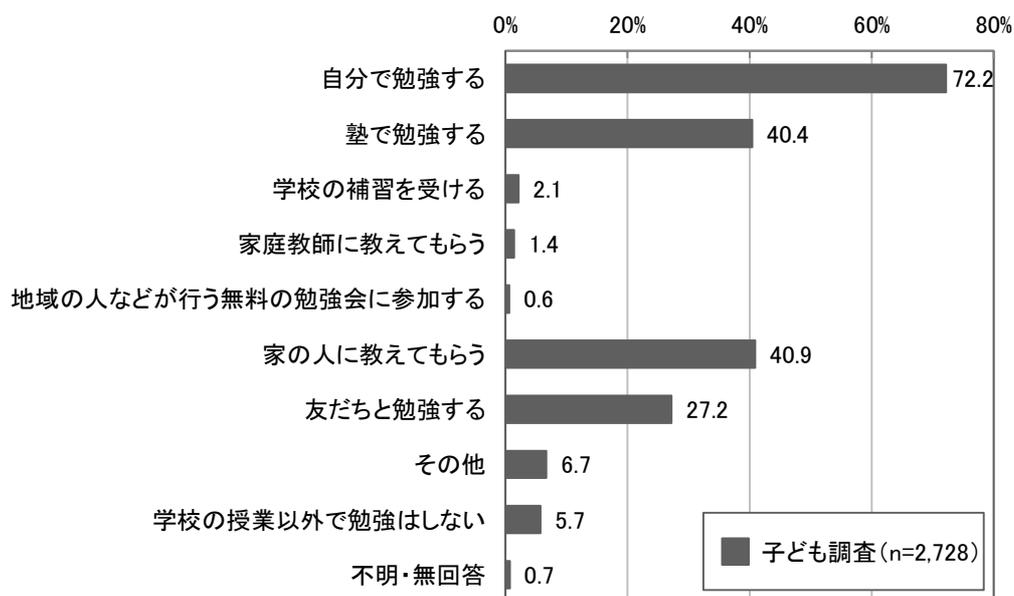
4 一宮市の子どもたちの生活状況

～子どもたちの生活状況調査結果より～

(1) 学校の授業以外では“自分で勉強”しており、その時間は1～2時間程度

① 学校の授業以外での勉強

学校の授業以外での普段の勉強については、「自分で勉強する」が72.2%と最も多く、次いで「家の人に教えてもらう」が40.9%となっています。

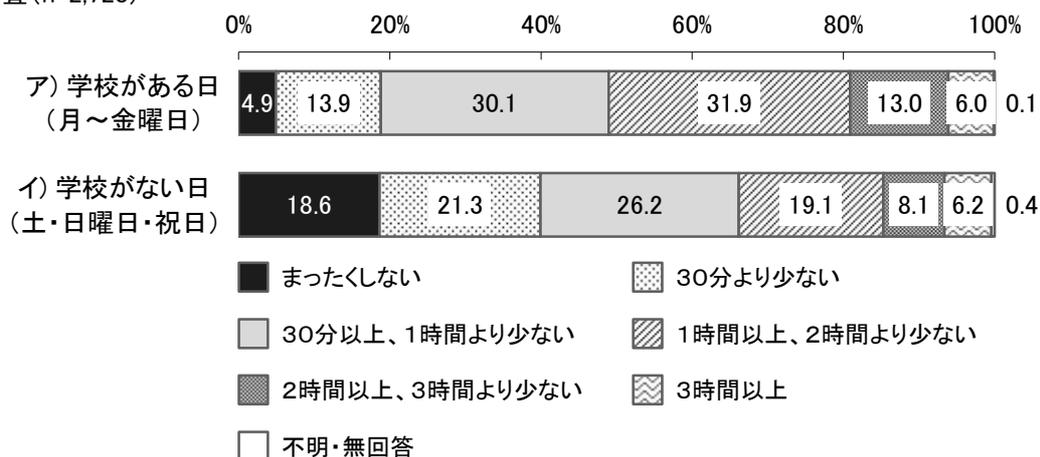


② 普段の学校以外の勉強時間

学校の授業以外での勉強時間について、ア) 学校がある日(月～金曜日)では、「1時間以上、2時間より少ない」が31.9%と最も多く、次いで「30分以上、1時間より少ない」が30.1%となっています。

また、イ) 学校がない日(土・日曜日・祝日)では、「30分以上、1時間より少ない」が26.2%と最も多く、次いで「30分より少ない」が21.3%となっています。

子ども調査(n=2,728)

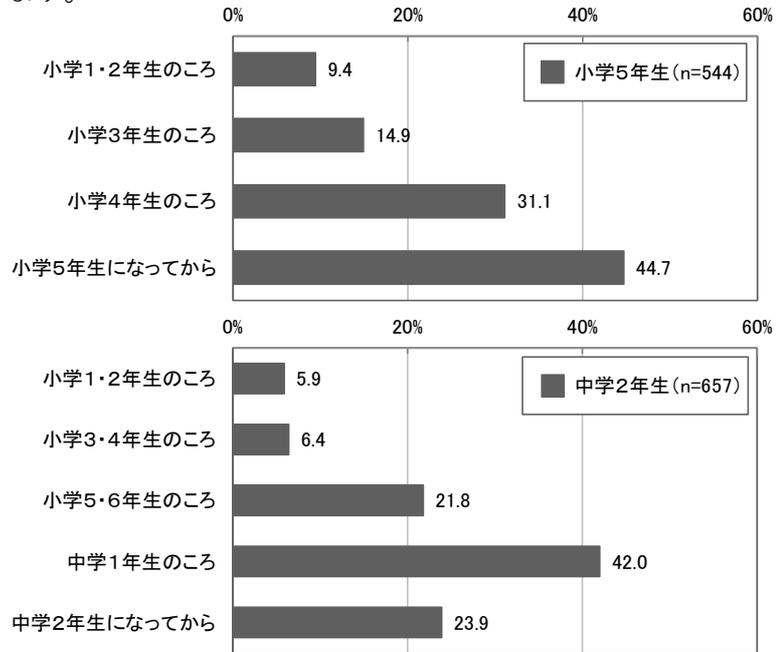




③ 授業がわからなくなったとき

学校の授業がわからないことが「ある」という回答をされた方に対して、その時期をたずねたところ、小学5年生では「小学5年生になってから」が44.7%と最も多く、次いで「小学4年生のころ」が31.1%となっています。

中学2年生では「中学1年生のころ」が42.0%と最も多く、次いで「中学2年生になってから」が23.9%となっています。



子どもの生活状況調査)))

本計画の策定に向けた基礎資料を得ることを目的に、2023年にアンケート調査を実施しました。

- 調査地域：一宮市全域
- 調査対象：一宮市内在住の小学5年生及び中学2年生の児童生徒
一宮市内在住の小学5年生及び中学2年生の児童生徒の保護者
- 抽出方法：児童生徒及びその保護者をそれぞれ無作為抽出
- 調査期間：2023年10月2日(月)～11月6日(月)
- 調査方法：児童生徒は電子回答、保護者は郵送による回収又は電子回答

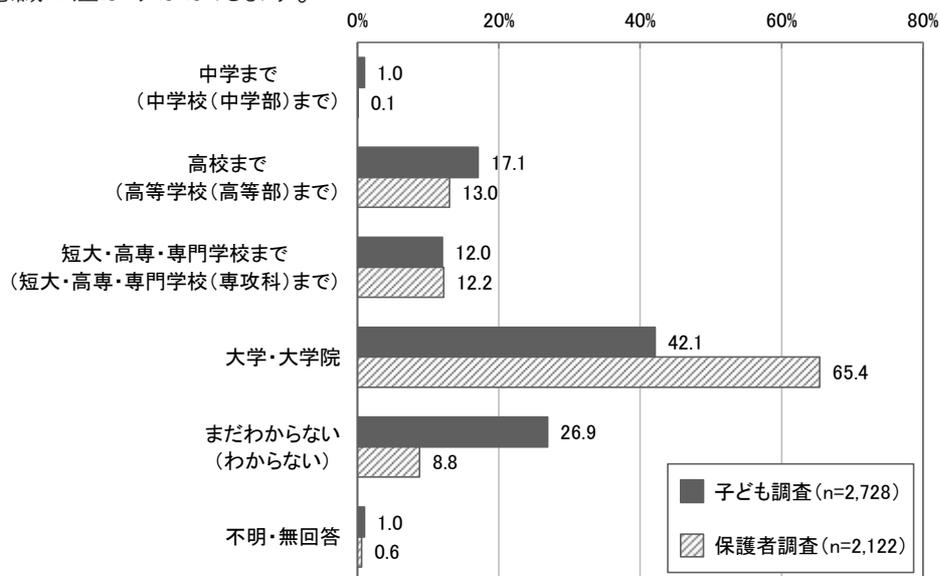
調査票	調査対象者数 (配布数)	有効回収数	有効回収率
児童生徒	3,282	2,728	83.1%
児童生徒の保護者	3,282	2,122	64.7%

(2) 将来の進学希望は、子どもと保護者の意識差がある

将来的に希望する進学段階について、子ども調査では「大学・大学院」が42.1%と最も多く、次いで「まだわからない」が26.9%、「高校まで」が17.1%となっています。

一方の保護者調査では、「大学・大学院」が65.4%と最も多く、次いで「高等学校（高等部）まで」が13.0%、「短大・高専・専門学校（専攻科）まで」が12.2%となっています。

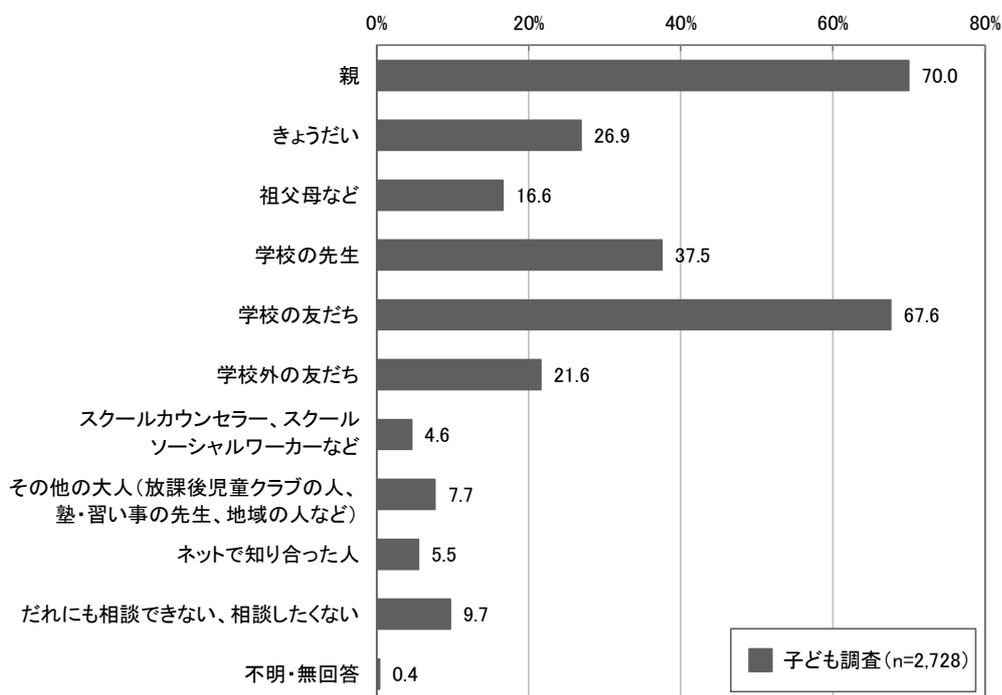
また、高校以上の進学を希望している子どもが71.2%である一方、保護者では90.6%と子どもと保護者の意識の差がうかがえます。



※ () 内に示した項目は保護者調査における選択項目で、子ども調査と異なる場合のもの

(3) 困っていることや悩みごとがあるときの相談先は「親」「学校の友だち」が多い

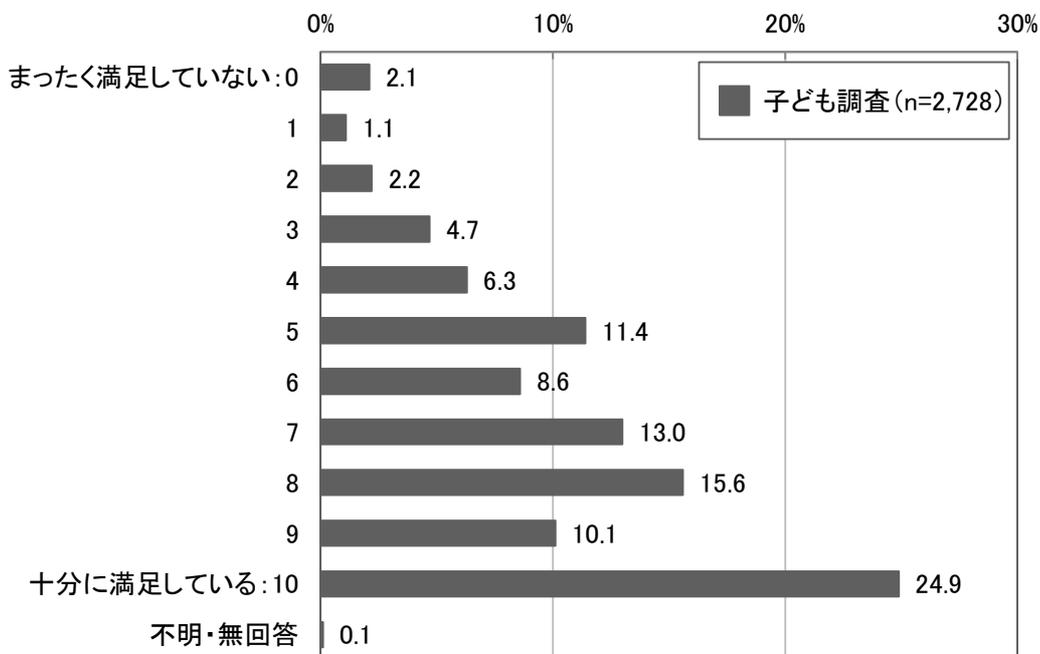
困っていることや悩みごとがあるときに相談できると思う人については、「親」が70.0%と最も多く、次いで「学校の友だち」が67.6%、「学校の先生」が37.5%となっています。





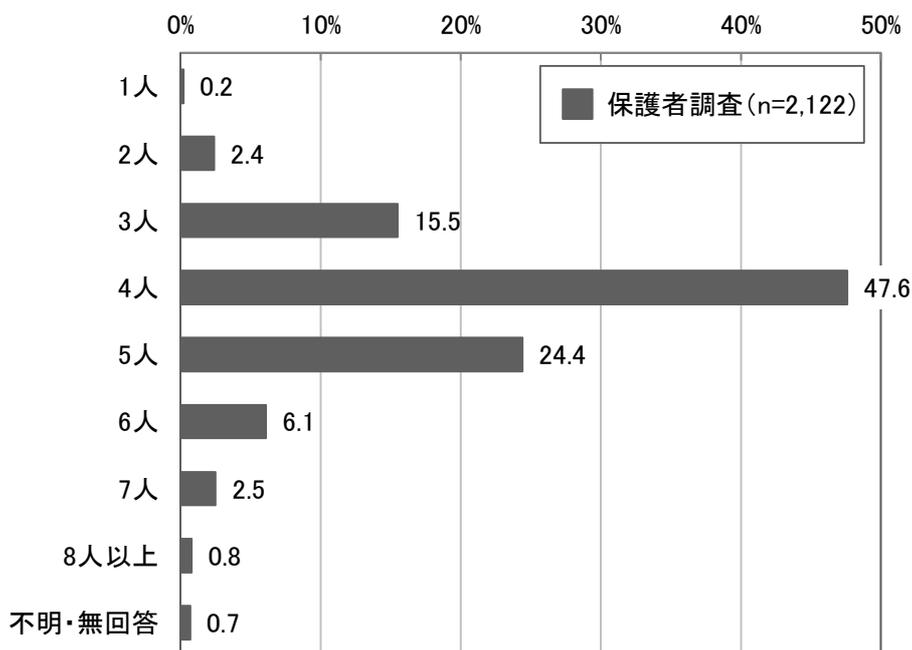
(4) 生活の満足度は、おおむね高い

最近の生活の満足度について0～10段階で質問したところ、「10:十分に満足している」が24.9%と最も多く、次いで「8」が15.6%、「7」が13.0%となっています。また、平均は7.1となっています。



(5) 生計をともにしている人数は「4人」が最も多い

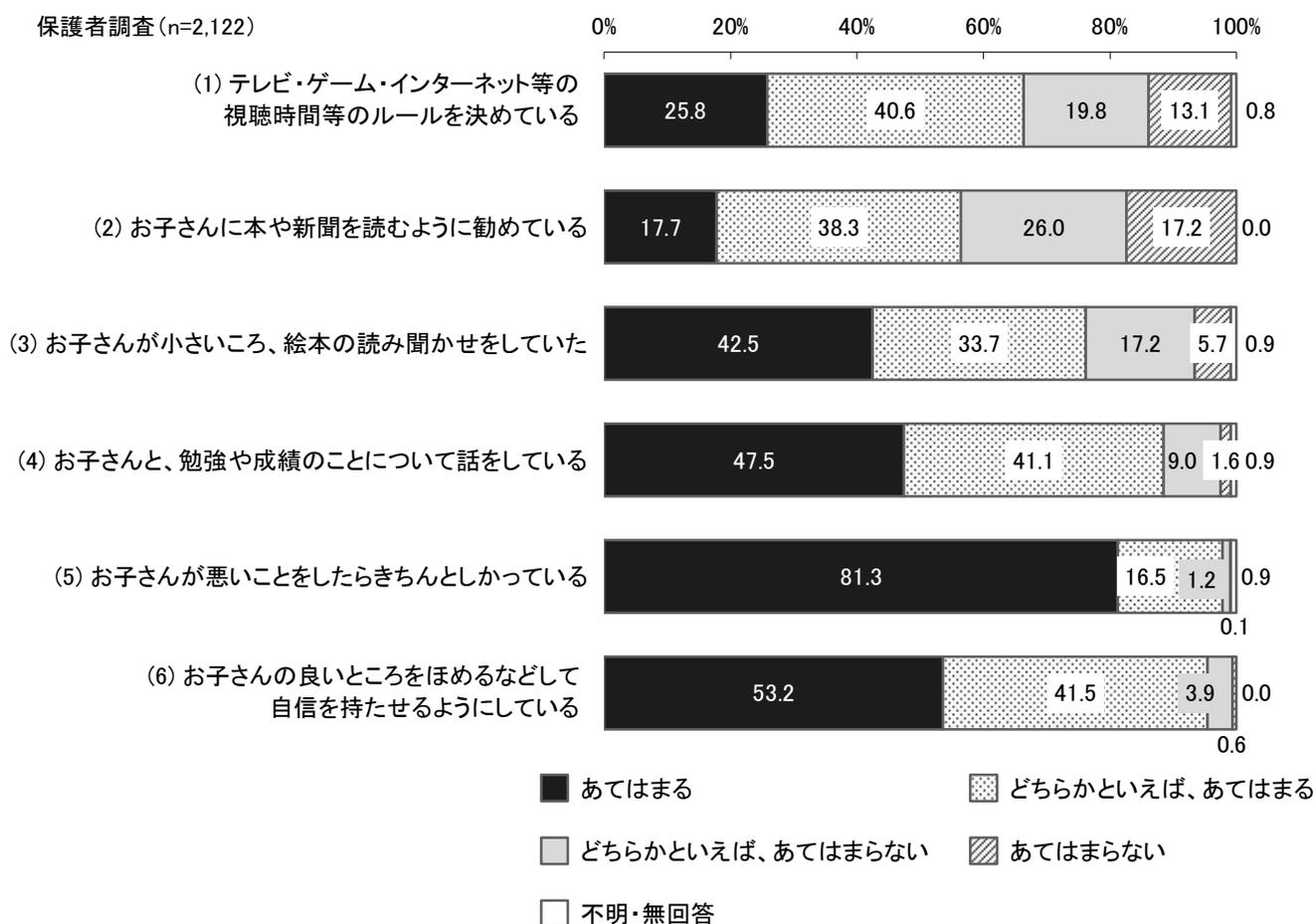
生計をともにしている人数は、(回答者や世帯内の子どもを含めて)「4人」が47.6%と最も多く、次いで「5人」が24.4%、「3人」が15.5%となっています。



(6) 保護者の子どもへの関わり方

『あてはまる』（「あてはまる」と「どちらかといえば、あてはまる」の合計）が最も多い項目は【(5)お子さんが悪いことをしたらきちんとしかっている】が97.8%、次いで【(6)お子さんの良いところをほめるなどして自信を持たせるようにしている】が94.7%、【(4)お子さんと、勉強や成績のことについて話をしている】が88.6%となっています。

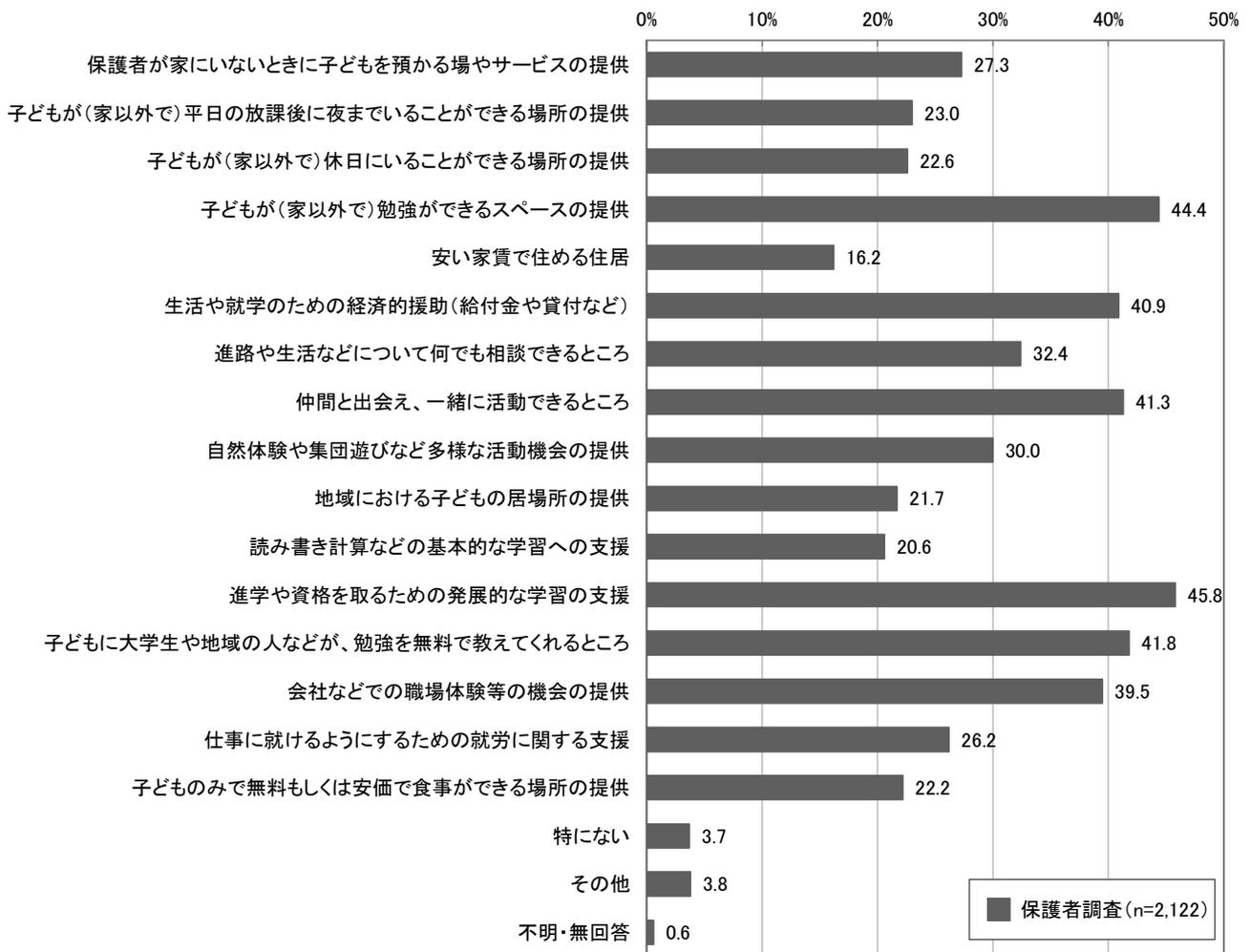
一方、『あてはまらない』（「あてはまらない」と「どちらかといえば、あてはまらない」の合計）が最も多い項目は【(2)お子さんに本や新聞を読むように勧めている】が43.2%、次いで【(1)テレビ・ゲーム・インターネット等の視聴時間等のルールを決めている】が32.9%、【(3)お子さんが小さいころ、絵本の読み聞かせをしていた】が22.9%となっています。





(7) 保護者が望む子どもにとって必要な支援は“学習面での支援”が多い

子どもにとって、どのような支援があるとよいかという質問については、「進学や資格を取るための発展的な学習の支援」が45.8%と最も多く、次いで「子どもが(家以外で)勉強ができるスペースの提供」が44.4%、「子どもに大学生や地域の人などが、勉強を無料で教えてくれるところ」が41.8%となっています。

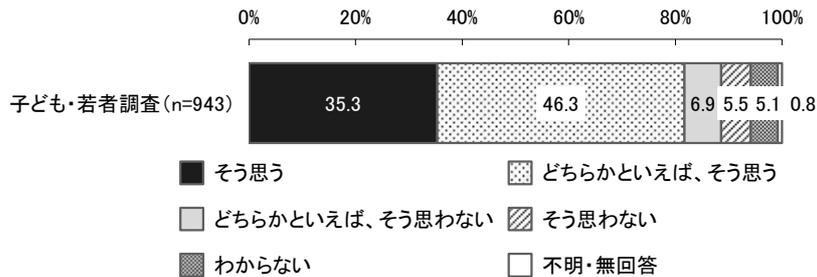


5 一宮市の子ども・若者の意識と生活

～子ども・若者の意識と生活に関するアンケート調査結果より～

(1) 日頃の生活に対しては、おおむね“幸せだと思っている”が多い

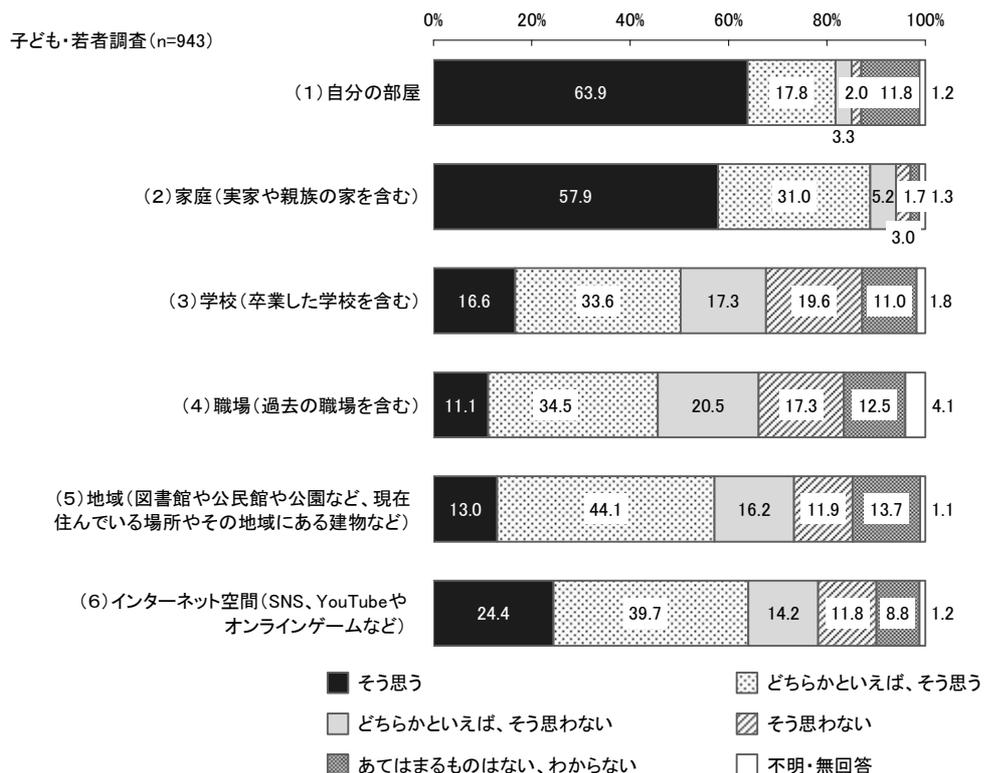
今、自分が幸せだと思いますかという質問については、『そう思う』（「そう思う」と「どちらかといえば、そう思う」の合計）が81.6%、『そう思わない』（「そう思わない」と「どちらかといえば、そう思わない」の合計）が12.4%となっています。



(2) 居場所については“家庭”や“自分の部屋”をほっとできる場所と捉えている若者が多い

あなたにとって居場所になっているかという質問については、『そう思う』（「そう思う」と「どちらかといえば、そう思う」の合計）では、【(2) 家庭（実家や親族の家を含む）】が88.9%と最も多く、次いで【(1) 自分の部屋】が81.7%、【(6) インターネット空間（SNS、YouTubeやオンラインゲームなど）】が64.1%となっています。

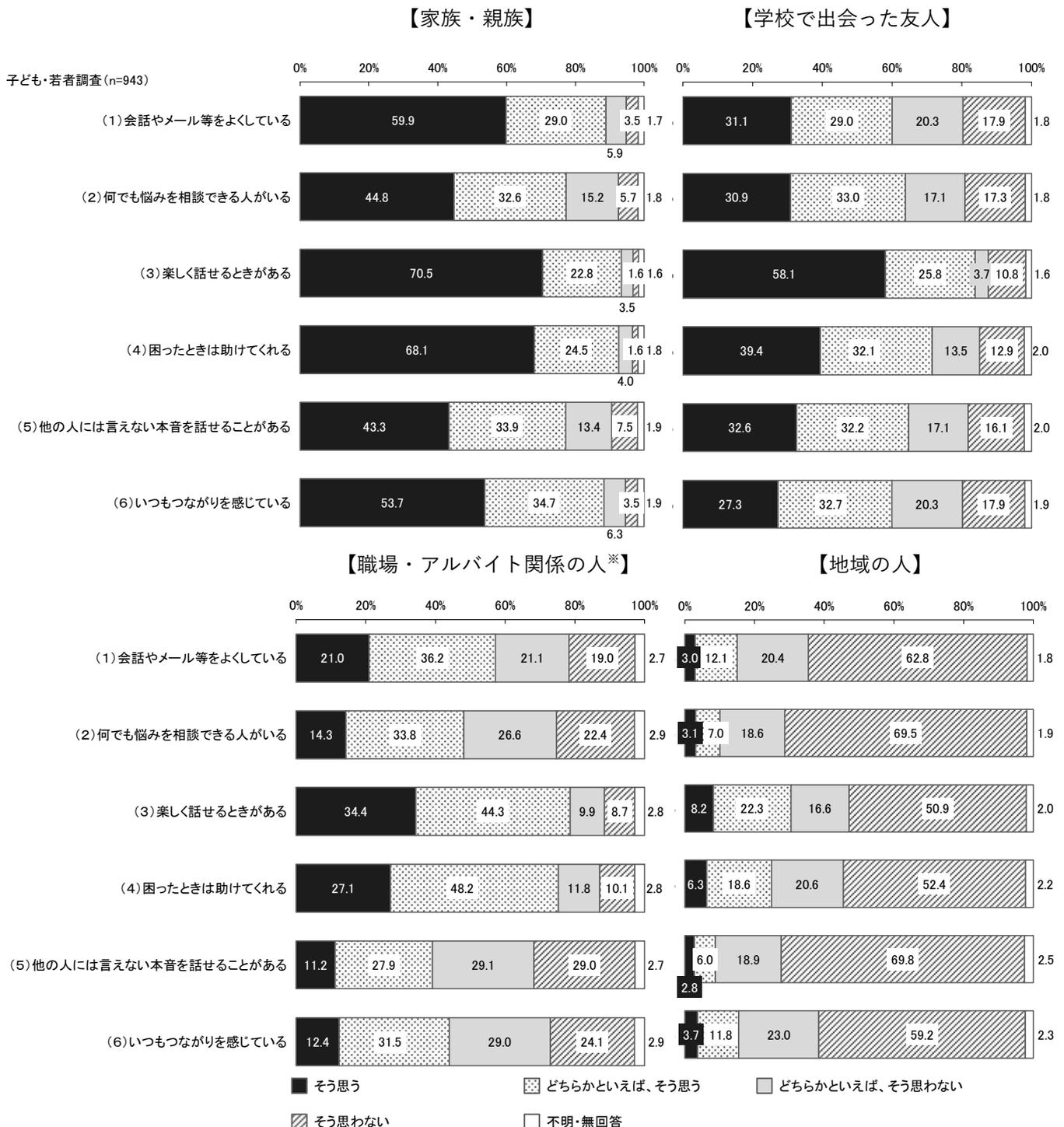
『そう思わない』（「そう思わない」と「どちらかといえば、そう思わない」の合計）では、【(4) 職場（過去の職場を含む）】が37.8%と最も多く、次いで【(3) 学校（卒業した学校を含む）】が36.9%、【(5) 地域（図書館や公民館や公園など、現在住んでいる場所やその地域にある建物など）】が28.1%となっています。





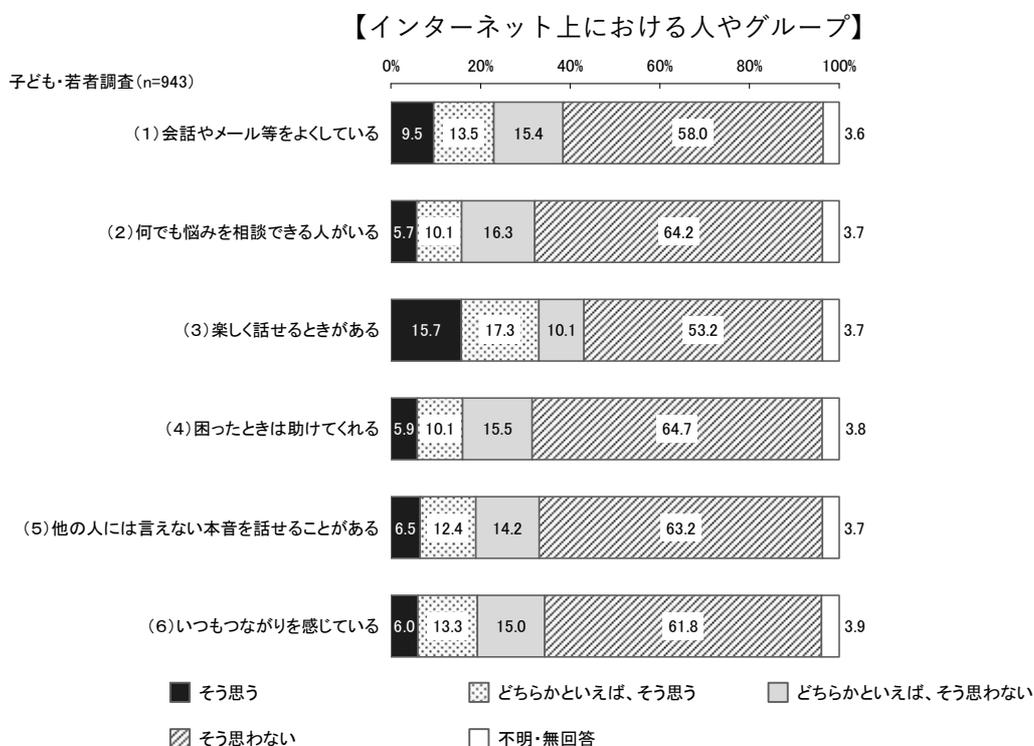
(3) ネット上で関わる人が一定数あるものの、リアルで会える人との関わりが深い

家族・親族や、学校で出会った友人（現在通っている学校の友人、かつての同窓生など）、職場・アルバイト関係の人（現在及び過去の職場の同僚・上司・部下、その他仕事の関係で知り合った人など）、地域の人（近所の人、町内会などの知人、その他の地域活動での知人、塾や習い事での知人、参加しているNPO法人など）との関わりで『そう思う』（「そう思う」と「どちらかといえば、そう思う」の合計）ことについては、【(3) 楽しく話せるときがある】がそれぞれ 93.3%、83.9%、78.7%、30.5%と最も多く、次いで【(4) 困ったときは助けてくれる】が 92.6%、71.5%、75.3%、24.9%となっています。



※当該項目については「現在、過去のいずれかに就業経験がある方のみ」が対象となっているため n=820

一方で、インターネット上における人やグループ（実際には会ったことがない、又は、何回か会ったことはあっても、基本的にはインターネット中心のつきあいの人やグループ）との関わりで『そう思う』ことについては、【（3）楽しく話せるときがある】が33.0%と他の項目と同様に最も多い項目となっていますが、次いで【（1）会話やメール等をよくしている】が23.0%となっています。



子ども・若者の意識と生活に関するアンケート調査)))

本計画の策定に向けた基礎資料を得ることを目的に、2023年にアンケート調査を実施しました。

- 調査地域：一宮市全域
- 調査対象：一宮市内在住の高校生・大学生・若者（15～39歳）
- 抽出方法：住民基本台帳より、15～39歳の若者を無作為抽出
- 調査期間：2023年10月13日（金）～10月31日（火）
- 調査方法：郵送による配布・回収又は電子回答

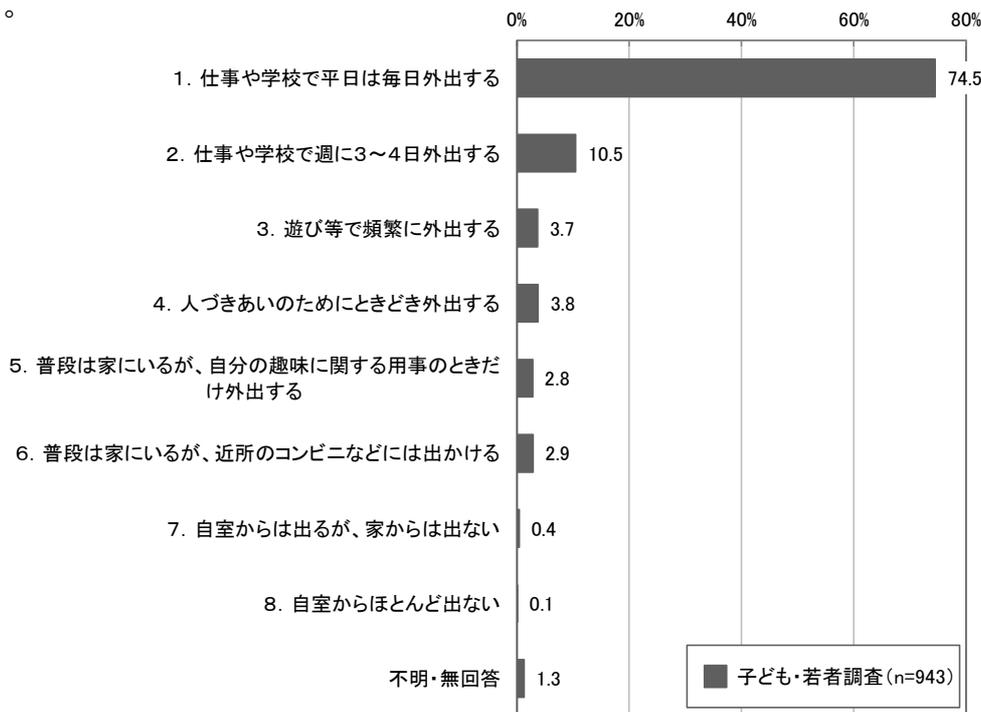
調査票	調査対象者数 (配布数)	有効回収数	有効回収率
子ども・若者	3,000	943	31.4%



(4) 約6%があまり外出していない状況

普段の外出状況については、「1. 仕事や学校で平日は毎日外出する」が74.5%と最も多く、次いで「2. 仕事や学校で週に3～4日外出する」が10.5%となっています。

また、「5. 普段は家にいるが、自分の趣味に関する用事のときだけ外出する」から「8. 自室からほとんど出ない」を選んだ方について、外出状況がその状態となった経過については、「3か月未満」が20.7%と最も多いものの、1年以上その状況が続いている方が65.4%と比較的多くなっています。



上段:件数 下段:%

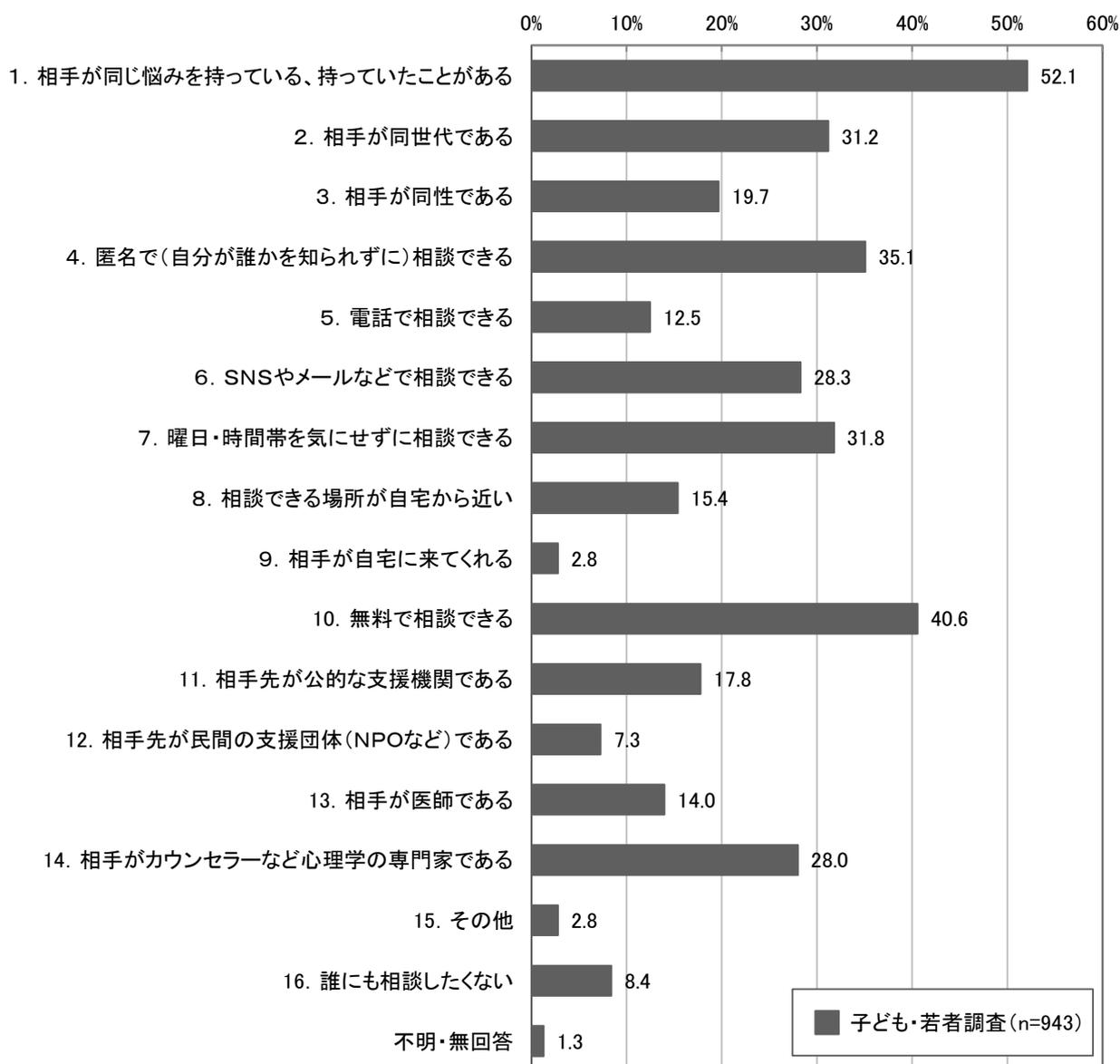
	3か月未満	3か月～6か月未満	6か月～1年未満	1年～2年未満	2年～3年未満	3年～5年未満	5年～7年未満
子ども・若者調査 (n=58)	12件 20.7%	3件 5.2%	4件 6.9%	8件 13.8%	9件 15.5%	8件 13.8%	6件 10.3%

	7年～10年未満	10年～15年未満	15年～20年未満	20年～25年未満	25年～30年未満	30年以上	不明・無回答
子ども・若者調査 (n=58)	0件 0.0%	5件 8.6%	0件 0.0%	1件 1.7%	0件 0.0%	1件 1.7%	1件 1.7%

※回答件数及び割合が低いいため、件数と割合を併記

(5) 家族や知り合い以外に相談する場合、相談相手・相談先に求めるもの

社会生活や日常生活を円滑に送ることができない状態となったときに家族や知り合い以外に相談する際、相談したいと思う人や場所については「1. 相手が同じ悩みを持っている、持っていたことがある」が52.1%と最も多く、次いで「10. 無料で相談できる」が40.6%となっています。





第2章 子どもを取り巻く現状

一方、「16. 誰にも相談したくない」を選んだ方が相談したくないと思う理由については、「相談しても解決できないと思うから」が44.3%と最も多く、次いで「相手がどんな人かわからないから」が31.6%となっています。

